

ARIBの動き

IEEE802.16に関する技術セミナーを開催

当会は、9月4日に明治記念館の曙の間において、IEEE802.16に関する技術セミナーを開催しました。

このセミナーは、IEEE 802.16の分野における技術開発および標準化の最新動向の普及・啓発を目的として、IEEE 802.16 WGのキーパーソンを含む専門家の講師を招いて実施しました。

IEEE 802.16の基本仕様（通称、WiMAX）を盛り込んだARIB標準規格STD-T94は、ブロードバンドワイヤレスアクセス（BWA）の無線インタフェースとして、2007年12月の第68回規格会議で承認され、既に2009年7月から商用サービスが開始されています。

また、本年10月のITU-R WP5DにおけるIMT-Advanced無線インタフェース候補技術の提案募集締切りに向け、当会では高度無線通信研究委員会IMT-Advanced部会無線インタフェース提案検討会において、その候補技術の一つとしてIEEE 802.16mの検討を進めていますが、本年8月31日から9月3日まで韓国済州島で開催されたIEEE 802.16 WG第63回会合で、本技術に基づくIMT-Advanced提案内容がほぼまとめられました。



IEEE802.16に関する技術セミナーの様子

本セミナーでは以下のとおり、IEEE 802.16mの概要と技術の詳細、IMT-Advancedに向けた提案内容、中継技術およびWiMAX商用化の現状と将来展望に至るまで、それぞれの専門家によるホットな講演が行われました。200名近くの受講者の皆様には熱心に聴講をいただき、活発な質疑応答がありました。

1 IEEE 802.16mプロジェクトの IEEE 802.16ワーキンググループ議長  
概要

ロジャー・マークス

2 「IEEE 802.16mの技術と性能」 高度無線通信研究委員会IMT-Advanced部会

IEEE 802.16ワーキンググループリエゾン代表  
庄納 崇

3 「IEEEのIMT-Advanced提案」 IEEE 802.16 ITUリエゾングループ議長

レザ・アレフィ

4 「中継技術と標準化 (IEEE802.16j) 」 IEEE 802.16リレー・タスクグループ議長

野原 光夫

5 UQ WiMAXの商用化と将来展望 UQコミュニケーションズ 技術部門長

渡辺 文夫



講師の方々を囲んで（左から、若尾専務理事、野原光夫氏、渡辺文夫氏、

第154回業務委員会を開催

第154回業務委員会を開催しましたので、その概要をお知らせします。

1 日時 平成21年9月9日(水)午後2時～3時20分まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

- (1) 事務局から、第14回GSC／第7回GRSC会合について報告がありました。
- (2) 事務局から、第4世代移動通信システム(IMT-Advanced)の無線方式に関する日本提案について説明がありました。
- (3) 事務局から、アルゼンチン共和国における地上デジタルテレビ放送日伯方式採用の決定について説明がありました。
- (4) 事務局から、ISDB-T インターナショナルフォーラム開催について説明がありました。
- (5) 事務局から、平成22年度総務省所管予算概算要求の概要について説明がありました。
- (6) 事務局から、「携帯端末向けマルチメディア放送の実現に向けた制度整備に関する基本的方針」及び参入希望調査の概要の公表について説明がありました。

電気通信・放送行政の動き

地上デジタル放送における「緊急地震速報」の速やかな伝送に向けた  
技術的検討結果

【平成21年9月4日の総務省情報通信報道資料から】

総務省は、社団法人電波産業会及び社団法人デジタル放送推進協会から、地上デジタル放送における「緊急地震速報」の速やかな伝送に向けた技術的検討結果を、本日受領しました。

これを参考に、総務省としては、国民への「緊急地震速報」の速やかな伝送がいち早く実現されるべく、取組を強化していきます。

総務省は、平成20年9月に、デジタル放送の民間標準規格の検討、策定等を行っている社団法人電波産業会及び社団法人デジタル放送推進協会に対し、地上デジタル放送における「緊急地震速報」の速やかな伝送に向けた技術的手法の検討の推進について依頼しました。それらの法人で行われた検討の結果について、総務省は別添のとおり、本日受領しました。

「緊急地震速報」の速やかな伝送に向けては、映像情報圧縮に要する処理時間の短縮化技術の適用もある程度効果があると考えられるところ、検討結果では以下の新たな手法が示されました。

- (1) 現状の受信設備での迅速化改善手法（文字スーパーを利用する手法又はデータ放送を利用する手法）
- (2) 受信設備の設計変更を伴うが抜本的な迅速化を実現する手法（伝送制御用の伝送路（AC: Auxiliary Channel）を利用する手法）

総務省では、これを受け、「緊急地震速報」の伝送を抜本的に迅速化する手法に関し、所要の審議会における検討を経て、必要な制度整備を進めてまいります。

それ以外の手法は現時点でも民間の自主的な取組により実現可能であることから、視聴者へのより迅速で確実な情報伝達が一刻も早く実現するよう、本検討結果等を参考としつつ、放送事業者により、迅速化に向けた取組が進められることを期待します。

（おことわり）

本報道資料中の別添資料については、本紙面の制約から掲載できませんでした。

詳細は「[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/02ryutsu08\\_000016.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02ryutsu08_000016.html)」をご参照ください。

## 編集後記

---

今回から新たに編集メンバーに加わりました編集子:bsjです。ARIB機関誌の編集、セミナーの企画運営、展示会の出展準備など初めての事ばかりで戸惑っていますが、周りの人たちの助けを借りながら何とかこなしています。どうぞよろしくお願い致します。

最近、新型インフルエンザが大流行の兆しをみせており、会員の皆様においても感染予防に余念がないことと思います。

この新型インフルエンザはウィルス（ビールス）による感染ですが、「細菌」と「ウィルス」の違いをご存知でしょうか。細菌は自分の遺伝情報（DNA）とそれを増やすための「細胞」から成り立っています。一方、ウィルスには自分の遺伝情報（DNA）は持っていますが、それを増やすための「細胞」がありません。ではどうやってウィルスを増やすのかというと、人間の細胞に間借りしてその細胞を利用して増えるのです。したがってウィルスは細菌と異なり、生

物の中でのみ増殖するため、自然環境中では数分間から数時間内で感染力を失うとされています。くれぐれも、自分の細胞で繁殖させないように十分気をつけてください。

コンピュータウィルスが、人間の細胞で繁殖するようになったら怖いですね。

(編集子:bsj)

[ページの先頭に戻る ▲](#)